

今日のトピック インドの経済・市場動向（2018年3月後半）

株式市場は調整続く、債券市場は反発

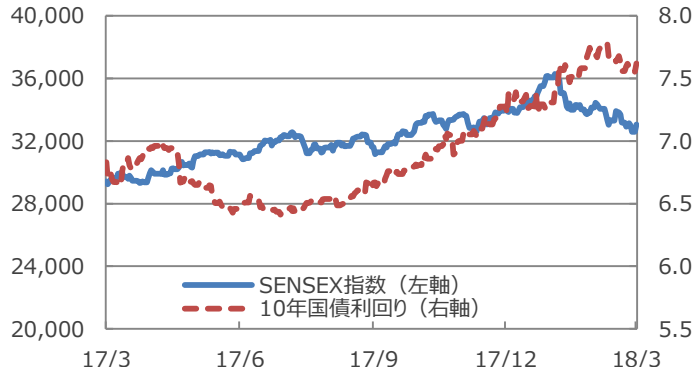
【インド市場の推移】

インド市場	基準日	騰落率または変化幅 (%)			
	3月26日	1週間	1か月	6か月	1年
為替レート					
円/ルピー (円)	1.62	▲0.2	▲1.5	▲5.2	▲4.5
ルピー/米ドル (ルピー)	64.87	▲0.5	0.1	▲0.9	▲0.8
金利					
政策金利 (%)	6.00	0.0	0.0	0.0	▲0.3
10年国債利回り (%)	7.62	0.0	▲0.1	1.0	0.8
株式指数					
SENSEX指数	33,066	0.4	▲4.0	4.6	12.4

(注) データは2018年3月26日基準。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

(ポイント) 【インドの株式と長期金利の動向】 (%)



(注) データは2017年3月26日～2018年3月26日。

(出所) Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

ポイント1 株式市場は引き続き軟調な展開

国営銀行の不正取引の影響や貿易摩擦への警戒感

- インド株式市場は、主要株価指数のSENSEXが年初来安値圏にあるなど、引き続き軟調な展開となっています。大手国営銀行を巡る巨額の不正取引の影響が尾を引いていることに加え、トランプ米政権が中国に対して「通商法301条」を発動すると表明し、貿易摩擦が高まることへの警戒感から投資家のリスク回避姿勢が強まり、世界的に株式市場が調整したことが背景です。

ポイント2 債券市場は反発

インフレ率の鈍化やリスク回避の動き

- インドの2月の消費者物価指数は野菜価格の落ち着きを主因に前年同月比+4.4%と、市場予想の同+4.7%を下回り、1月の同+5.1%から鈍化しました。昨年秋以降、下落基調が続いてきた債券市場は、インド準備銀行が金融引き締め方向へ政策スタンスを変更するとの警戒感が和らいだことや、米中の貿易戦争への懸念と世界的な株安を受けたリスク回避の債券買いなどから反発しました。インドの10年国債利回りは月初の7.7%台から7.6%近辺へ低下しました。

今後の展開 経済成長加速や業績拡大が株式市場を支えよう

- インドの1月の鉱工業生産指数は前年同月比+7.5%増と好調で、資本財生産が上振れるなど投資が持ち直していることを示唆しました。株式市場は調整局面が続いていますが、インド経済は加速しつつあるとみられ、今後は業績拡大期待が株式市場を支えると思われます。
- 債券市場では、目先のインフレ上振れリスクが一旦後退しそうです。次回の金融政策決定会合ではインド準備銀行が現状の中立スタンスを維持するとみられ、長期金利は当面もみ合う展開が見込まれます。

ここも **2018年3月 8日** **インドの経済・市場動向（2018年3月前半）**

チェック! **2018年2月22日** **インドの経済・市場動向（2018年2月後半）**

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。